



国際交流委員会・合作弁学実施委員会 平成20年(2008年)6月11日発行  
Website: <http://international.edu.mie-u.ac.jp/index.html>

天津便り

四十二の瞳

音楽教育講座准教授  
根津知佳子

3月30日から4月13日まで天津に滞在し、『言語表現と非言語表現』の集中講義を担当しました。

“表現”“鑑賞”“創る”“動く”“語る”という音楽の活動形態のうち、「音楽を(について)語る」、ということを中心に授業を展開しました。キャンパスの“音風景”を書きとる、日本の教科書の歌唱教材の歌詞を説明する、音楽を聴いてイメージしたことを話す、など多様な形態を取り入れ、今まで学習した日本語を発揮してもらえるように心がけました。長期派遣の橋本博孝先生にお願いして、日本語の色名や歌詞の解釈をしていただいたこともあります。例えば、「三翠とはどんな色なのか」が話題になったことがありましたが、お互いのイメージを伝えあうことで、文化や価値観の相違を理解しあうことができたのではないかと思います。このような経験を通して、私自身も、日本語の持つ美しさや、歌唱曲に描写される日本の自然の豊さを改めて感じる事ができました。

すでに諸先生方の報告にありましたが、何事にも真摯に向き合う『二十四の瞳』ならぬ『四十二の瞳』がとても印象的でした。その瞳の奥に、来年の春から三重大学で勉強する、という強い“志”や“望”を感じました。

「ころざしを はたして いつのひにかかえらん やまはあおきふるさと みずは きよきふるさと」・・・『ふるさと』の三番の歌詞について触れた時のことです。学生達は、



自分たちの学びを支えてくれている故郷の家族や親戚のことを語ってくれました。親の世代である私自身が、雪国の長いトンネルを越えて東京に向かい、大学生活を始めた頃の初心を思い返すなど、学生たちからたくさんのことを学びました。

弥生の終わりに初めて空の上から見た大地は、チャコールグレーの世界でした。そして、わずか二週間の中に、キャンパスの桃や梨の花が満開になりました。そして、卯月も半ばになり、空港に向かう私を“なごり雪”のような“柳絮(りゅうじょ：柳の綿毛)”が見送ってくれました。

この数年間、丁寧に積み重ねられてきた天津師範大学との交流に直接関わることができたこと、師範大学の先生方や日本語を担当している先生方と「どのような学びの場を創出するか」ということについて話し合えたことは、とても有意義でした。

悠久の歴史を思えば、短い時間かもしれませぬ。しかし、季節の移ろいを感じながら、『四十二の瞳』たちの将来について語った二週間は、これからの教育実践の原点になると思います。

← サウンドスケープ。教室を飛び出して、自然の中に潜む音、木々のさやぎ、ひそかな眩き、見えない揺らぎを体感する天師大の学生たち。



「自然は神の宮にして、生ある柱 時をりに捉へがたなき言葉を洩らす」(C. Baudelaire)

■ 四十二の瞳	音楽教育講座准教授 根津知佳子
■ 第5回天津師範大学短期語学研修&文化交流メモ	国語教育講座准教授 別府直苗(団長)
■ 天津師範大学短期語学研修&文化交流引率記	国語教育講座講師 林朝子(副団長)
■ 天津師範大学短期語学研修&文化交流に参加して	日本語教育コース2年 真弓恵美加 日本語教育コース2年 伴光平
■ 三重大学の印象	外国人研究者 李远方(河南師範大学助教)
■ 河南師範大学訪問団来学	国際交流委員会委員長 松岡守

# 天津師範大学短期語学研修&文化交流

## 第5回天津師範大学短期語学研修&文化交流メモ

国語教育講座准教授 別府直苗（団長）

3月9日から15日間、天津師範大学に行ってまいりました。今年は、例年と違って、天津にはすでに伊藤彰男先生をはじめ、中田康行先生、早瀬光秋先生など三重大の先生方がいらっしやって、語学研修団をにぎやかに迎えてくれました。私と副団長の林朝子先生を加えて総勢5人ですから実に心強く感じました。これは、今までにないありがたい経験です。

さて、今回の語学研修行事の特徴は、次のとおりです。

まず、日本と中国の間の移動時間を大幅に短縮し、セントレアから直接天津空港に行ったことがあげられます。昨年は北京経由でした。

次は、三重大の語学研修学生たちと、天津師範大学の日本語コースの学生たちとがペアないしグループを組んで交流したことがあげられます。この中国の学生たちは、協定大学における独自の合作併学制度によって来年4月に三重大に留学する予定の者たちです。学生たちはだれも皆笑顔いっぱいでした。

さらに、研修期間中はおおむね天候に恵まれ暖かく過ごしやすかったこと（昨年は厳寒にみな震えた）、病人がほとんど出なかったこと、参加学生19名のうち、男子学生7人でこれまでで一番多かったこと、などがあげられます。

この語学研修では、午前中は中国語学習、午後は文化交流（太極拳・餃子作り・書法等と中国人学生との交流）というスケジュールでしたが、北京小旅行（万里の長城・故宮博物院・京劇鑑賞）や市内参観（古文化街・石家庭園）等も行われ、新しい中国の文化と古い中国の歴史を実感できたと、参加学生には大好評でした。これからも続いてほしい国際交流事業だと強く思いました。



別府先生と林先生を迎えられる伊藤先生、中田先生、早瀬先生。

## 天津師範大学短期語学研修&文化交流引率記

国語教育講座講師 林朝子（副団長）

2008年3月9日から23日の15日間、短期語学研修&文化交流の副団長として天津師範大学を訪れる機会を頂きました。今回が初めての中国訪問でした。天津空港に到着し、天師大に向かうバスの中から、大通りに並ぶスターバックス（星巴克珈琲）やマクドナルド（麦当劳）の漢字表記を見て「在中国」を感じ、学生以上に気持ちが高揚していたかもしれません。天津では天師大の先生方をはじめ、伊藤彰男先生、中田先生、早瀬先生に学生に対しても多大な気遣いをいただき、研修を滞りなく終えることができました。

15日間の研修で最も危惧していたのは学生の健康管理でしたが、今年は例年のない暖冬だったようで、ひどい風邪を引く学生もおらず、非常に順調に研修が進んだように思います。北京では万里の長城を訪れましたが、昨年は道が凍っていたと聞いて

天安門広場で記念撮影。総勢19名の参加学生。学生に混じって若々しい（ように見える）林先生（前列左から3番目）。



ていたので、学生には厚着するよう執拗に言い、私自身も8枚の重ね着とカイロ4つという万全の態勢で挑みました。学生に「ありえない(厚着)」と非難されながらも、寒さは想像つかないと言い張り、そのまま上り始めました。結果は…暑くて大変でした。危機管理の面では、携帯電話を落してしまうなどのハプニングもありましたが、学生自身で気を付けていたと思います。天師大の学生と一緒に行動することも多く、地元の人ならではの観光地等に連れて行ってもらった学生もいたようです。日中双方の学生にとって、中国語(は少し?)と日本語を使ってコミュニケーションをとる貴重な機会でもありました。

中国の印象として感じたのは、やはり近代化の速さです。中国を初めて訪れた人は誰もが感じることもかもしれませんが、天津と北京の近代化(内陸部は事情が違ふと思います)は著しく進んでいました。ニュースなどで中国の現状は理解しているつもりでしたが、目の当たりにするとその規模は予想を遥かに上回るものでした。道路や高層ビルが広大な土地を思う存分贅沢に使っており、国土の狭い日本人の感覚では考えられない羨ましい土地利用でした。ただ、その反面、古き良き時代の中国が凄まじい勢いで壊されたり、隠されたりしているようにも感じました。歩いているだけでは工事の囲いで中が見えないのですが、高架道路からは見下ろせますし、裏通りへ入れば表通りとは全く違う町並みになります。近代化と文化継承を同時に進める難しさを感じました。私は9月に再度天師大を訪れ、2週間日本語表現の授業を行うことになっています。その授業の中で機会があれば、今の大学生が近代化や文化継承についてどのような考えを持っているのか尋ねてみたいと思います。

## 天津師範大学短期語学研修&文化交流に参加して

日本語教育コース2年 真弓恵美加

普段の日本での生活に比べると天津での生活は大きく環境が違うので少し戸惑うこともありましたが、案外何不自由することもなく、出来る範囲で快適に過ごせたと思います。出発する前の不安とは正反対に、とにかく楽しすぎる濃い毎日を送り、とても思い出深い2週間となりました。

中国語の授業を1年間とはいたものの、聞きとることも話すことも全くと言っていいほどできない状態でした。そんな中、韓国人やインドネシア人、タイ人など様々な母国語を持つ人と一緒に1番下のG班で中国語の授業を受けました。クラスメートとは中国語で知っている単語が少ないながらも英語やジェスチャーを使いながら会話をし、一緒にご飯を食べに行ったり、カラオケに行ったり、とても仲良くしてもらいました。そのため、中国語の授業は楽しく積極的に勉強しようという姿勢になれました。また、天津師範大学の日本語学科の子とペアを組み、授業が終わった後や休みの日には互いの国のことや自分のことなど色々な話をし、色々な所に連れて行ってもらいました。2年間しか日本語を勉強していないというのに日本語が上手で、中国語を勉強して天津に行っていたのに中国語で答えられない自分を少し恥ずかしく思いました。来年彼らが三重大に留学して来る時には、このお返しができたらと思います。聞こえてくるのは中国語だけという状況を考えると辛いように思いますが、言語以上に互いに理解しようとする積極的な気持ちが必要だと私は実感しました。国籍も言語も年齢も境遇も全く違う人たちが一緒に笑うことができる、本当に素敵なことだと思います。

見て聞いて触れて、たくさんの異文化に出会えたことは、私にとってとても感動的で良い影響を受けました。何よりこの語学研修に参加して1番よかったと思うことは、素敵な出会いに出会えたことです。別れの日が辛いと思うほど、2週間という短い期間でしたが、本当に強い繋がりができたように思います。そしてこの出会いがあったからこそ、この語学研修が楽しく意義のあるものになりました。本当に参加できてよかったと思います。



週末の北京小旅行。万里の長城登城の途中で記念撮影。



「石家大院」入り口前で記念撮影。

日本語教育コース2年 伴 光平

語学研修ということで中国語の授業が毎日あって、大変でした。最初は先生が何を言っているのか全く分からずに時間が過ぎて行きました。でも受けているうちに耳も慣れ、少しずつ答えられるようになり、楽しくなってきました。

そして一番心に残っているのは向こうでの色々な出会いです。師範大の学生には天津で色々な所に連れて行ってもらいました。会話は相手の日本語が上手だから任せきりでずっと日本語だった気がしますが、でも少し中国語を話してみようと試してみるのには楽しかったし、向こうもちゃんと聞いてくれました。授業の内容を实践できる場だったと思います。師範大の学生は本当に面倒見が良くて優しかったです。来年三重大に来てくれるのを楽しみにしています。そしてもう一つの出会いは、中国語の授業で一緒だったクラスメートの人たちです。韓国やインドネシアやタイなど色々な国の人がありました。みんなとてもフレンドリーでした。向こうが話しかけてくれたおかげで仲良くなれた気がします。そう考えてみるとやはり日本人は少し消極的なのかもかもしれません。何度か食事に行く機会があったのですが、そこで交わされる言葉が英語、中国語、それぞれの母語など様々で、わからなくても楽しかったです。師範大の学生と違って日本語が本当に伝わらないからお互いの言っている事を理解するのに戸惑うこともありましたが、それでも会話するのはとても楽しかったです。正直中国語はほとんど使いませんでした。というより使えませんでした。でも大事なことは伝えるということだから、この人たちのことは一生忘れません。

この研修に来て中国のことや中国語を勉強できてよかったです。そしてそれ以上に語学や外国に興味を持つことができました。これらに興味を持てたのは色々な人との出会いのおかげです。今まで日本人以外と関わることの無かった自分にとって外国の人と関わったことはとても大きいものになりました。将来のために視野を広げることのできた研修でした。本当にこの研修に参加してよかったです。

## 外国人研究者

## 三重大学の印象

外国人研究者  
李远方 / LEE YUANFANG  
(河南師範大学助教授)

三重大学に参りまして約2週間が過ぎました。多くの優秀な先生や熱心な学生が集うこの大学に来る機会を得られたことを大変嬉しく思います。これまでにすばらしい事が沢山あり、これらは今後いつまでも私の美しい思い出として残ります。

まず最初は共同研究者である早瀬光秋教授についてです。早瀬氏は有能な教授であるばかりでなく思いやりのある紳士です。氏は私が宿舎に入るにあたり、様々な食器、スリッパ、そして当座の米までも準備してくれました。氏の準備がなければ、私は到着早々これらの物を苦労して求めなければならなかったでしょう。

早瀬氏は英語科の先生はもとより他の科の先生、そして学生に私を紹介しました。先生方や学生は中国での地震について深く心配している旨を伝えてくれました。又多くの人からは私の滞在に関して援助の申し出がありました。これらの方々の崇高な精神に感動しています。

これまで、英語科の幾つかの授業を観察しました。これらの授業は良くまとまっており、先生方は教え方が上手く、学生は一生懸命勉強していました。学生の多くは大学から遠く離れて住んでいて、通学に何時間も費やします。宿題は夜家でしているものと思います。印象深かったのは、ある金曜日に強い雨が降っていたのにもかかわらず、全員が1時限目の

授業に遅刻をしないで出席したことです。

三重大学のキャンパスは、自然に囲まれ、静寂であり、とてもきれいで、教授陣と学生が研究や勉学を行うのに完璧な環境があります。一部の大学に見られるような特殊なデザインを持つ高層建築は無く、緑の葉が繁る木々と香り豊かな花々に囲まれた低い建物を三重大学は有しています。混雑しているところが多い今日、騒音から逃れることは困難です。しかしながら、この三重大学では地上の楽園や桃源郷のような静けさが支配しています。車の音は聞こえず、人々は小声で話し、時々上品な笑いが聞こえます。

優れた先生方は心優しく、勤勉な学生は社会的であり、自然と調和した美しく静かな校庭を持つ三重大学は学問をする誰にとっても理想的な場所です。私は三重大学が好きです。(英文より翻訳：早瀬光秋)



今年5月に来られた李先生

## 教育学部訪問団

### 河南師範大学訪問団来学

国際交流委員会委員長 松岡 守

4月21日、本学部と学部間協定を結んでいる河南師範大学より4名の方々(副学長：徐存拴/XU CUNSHUAN氏、日本語科学科長：劉徳潤/LIU DERUN氏、図書館館長：金俊岐/JIN JUNQI氏、学生処長：張向战/ZHANG XIANGZHAN氏)が来学されました。三重大学学長、三重大学教育学部学部長他と懇談、今後交流をより深く、また様々な形で進めていこうといった話し合いがなされました。



写真向かって、山田学部長の右側に河南師範大学副学長の徐存拴氏と劉徳潤氏、左側に金俊岐氏と張向战氏。